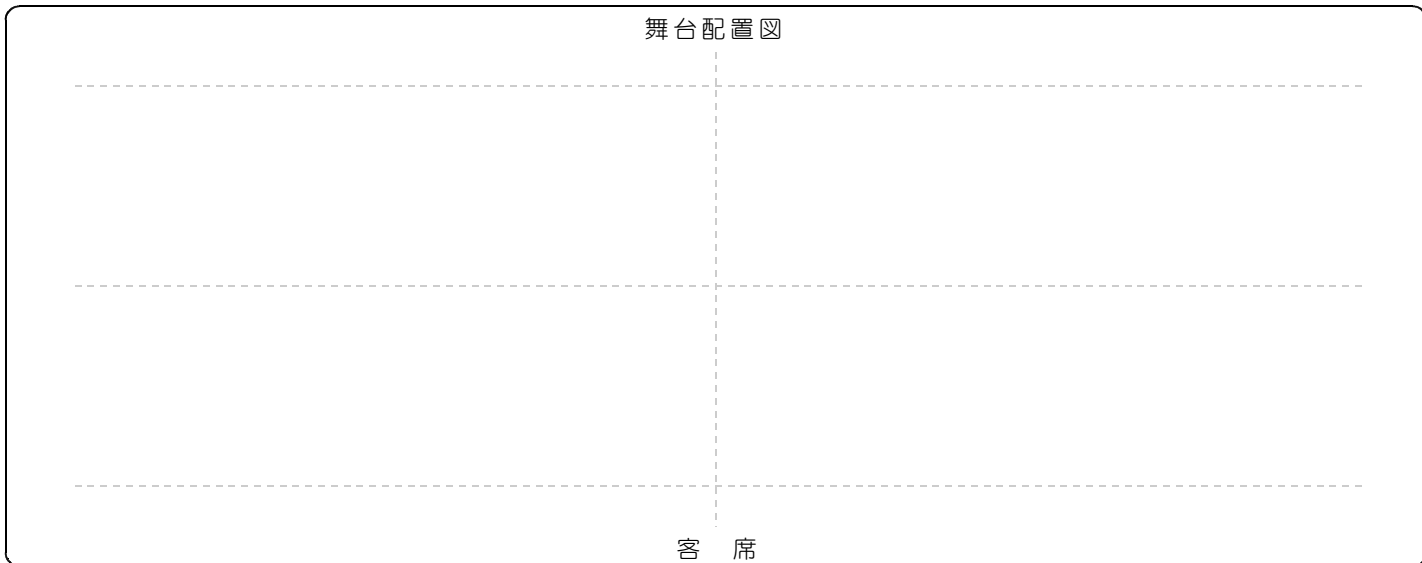


No.	火 垂 る	演奏者数	演奏時間
-----	-------	------	------

舞台配置図



客 席

表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ エコー	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座 奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44		編成：17絃														
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	1	2	3	4	5	6	7
17絃	B	C	E	G	A#°	B°	C°	E°	F°	F#°	G°	B°	C°	F°	G°	B°	C°

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1980年 委嘱者 沢井一恵 構成 十七弦独奏 時間 10分 出版楽譜 無し

解説 何年か前、私は野坂昭如氏の「火垂るの墓」という小節に接した。物語は、終戦の年に栄養失調で死んだ当時中学三年生の浮浪児とその妹の死までを氏の原体験をもとに描かれた短編で、「空襲の焔に焼かれ、幼い妹と二人防空壕の横穴で、灯りがわりに蛍を捕まえて蚊帳に入れ、かろうじて生きて行く生活。次第に痩せおとろえ、やがて死ぬ妹。彼は妹の屍体を焼くが、火が燃え尽きたとき、まわりに夥しい蛍が群れる。そして彼は妹がこの蛍と一緒に天国へのぼるのだと思う。」というのがこの物語のあらすじだが、私は氏の独特の文体と、そこにあるおぞましい程の情景の中に流れる一筋の美しさに突き上げる様な感動を覚え、作曲したものである。だが曲自体は、物語のあらすじとは切り離れたもので、私の感動の流露としての覚え書きであることを記しておく。

1980年作曲。[作曲者] 収録媒体 沢井忠夫 箏の世界 麒麟 (30C33-7928) 日本の音2 箏 (C0CF-9382)